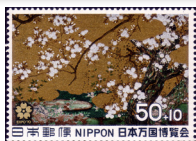


2016 年カレンダー

切手にみる日本の美



月次風俗図屏風



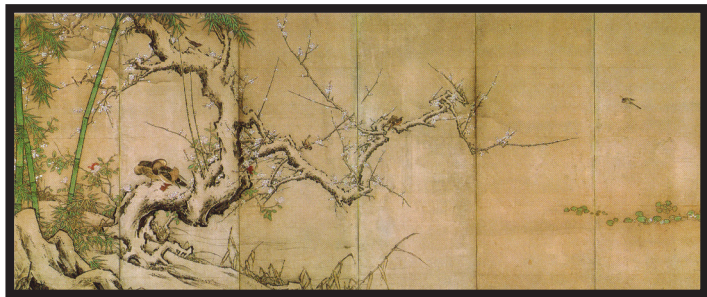
公卿から庶民に及ぶ各層の月次の風俗を描く八図を貼り付けた小屏風。平安時代に盛行した大和絵の古典的ジャンルである月次絵の伝統をひくものであるが、人物の労働や遊楽の有様に強い関心が注がれ、近世初期風俗画の成立につながる傾

2016 年

1 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

花鳥図屏風



紙本着色花鳥図〈長谷川信春
筆／六曲屏風〉
149.5 × 360.0cm
重要文化財
紙本着色 桃山時代初期
妙覚寺蔵（岡山市）

従来等伯の子久蔵と
同人であるとされてき
た長谷川信春は、近時
研究が進むにつれて、
等伯の前身であるとい
う説が脚光をあびてい

るが、信春すなわち等伯を確認する史料は
出現していない現状である。信春の他の作
例に比べて、本屏風は様式的には等伯に密
着する感が深く、同人説をとれば、信春と
称した時期の終り頃の制作であろう。印章
も諸作が信春袋印を押すのに比べ、「長谷
川」の長方印と「信春」の鼎印【ていしん】
を押している点に異色がある。等伯云々は
さておき、本屏風は、長谷川派花鳥画のう
ちで屈指の優作というべきであろう

1977 年国際文通週間記念

2016 年

2 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

花下游楽図



国宝 名称：紙本着色花下游楽図 狩野長信筆 6 曲 1 双 紙本着色 安土桃山～江戸時代

右隻は、満開の八重桜の下で貴婦人を中心に酒宴が繰り広げられるさまを、左隻は、花咲く海棠の木の下で八角堂に坐り、風流踊りを眺める貴公子の一団を描く。特に、美しい衣裳を着て腰をひねって踊る姿態は印象的である。刀をもって踊る左隻右側の 4 人の姿は、流行の阿国歌舞伎を写したものとみられる。

人物は画面に対して相当大きく表され、爛漫の春を楽しむ人びとの姿そのものに、画家の興味が向けられている。こうした人物への関心が、やがて寛永期の優れた風俗画に引き継がれていく。

背景には、当時一般的であった金碧を用いず水墨画の技法を生かしていること、両端に巨樹を配して構図を整えていることなど、表現はむしろ古様である。作者は、印章によって、狩野永徳の末弟、長信（1577－1654）と知られ、制作年代は不明であるが、慶長末年から元和初年（1610 年代）とする説もある。もと、明治の実業家原六郎の所蔵であったが、修理の最中に関東大震災に見舞われ、右隻中央の 2 扇が焼失した。東京国立博物館



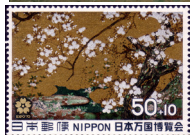
1962 切手趣味週間記念

2016 年

3 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

智積院・障壁画



1968 年万国博覧会募金



『桜図』は長谷川等伯の長男である久蔵の作品、中心に巨木、左右の枝を広げている構図は迫力がある。智積院は過去4度も火災にあっており、本来は天井までの大きさであったとされる。桜の花卉は胡粉を用いて立体的に描かれている。この桜図の他、等伯の楓図が有名。

2016 年

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

雨中湯帰り



鳥居清長作
浮世絵 雨中湯帰り
通称 雨傘



1958 年切手趣味週間

2016 年

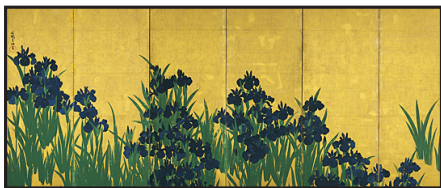
5 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

燕子花図屏風



2011年
旅の風景シリーズ



尾形光琳筆
江戸時代 18 世紀
紙本金地着色 6 曲 1 双
(各) 縦 150.9cm 横 338.8cm
根津美術館蔵



1970 年日本万国博覧会記念

総金地の六曲一双屏風に、濃淡の群青と緑青によって鮮烈に描きだされた燕子花の群生。その背後には『伊勢物語』第9段の東下り、燕子花の名所・八つ橋で詠じられた和歌がある。左右隻の対照も計算しつつ、リズムカルに配置された燕子花は、一部に型紙が反復して利用されるなど、一見、意匠性が際立つが、顔料の特性をいかした花卉のふっくらとした表現もみごとである。筆者の尾形光琳（1658～1716）は京都の高級呉服商に生まれ、俵屋宗達に私淑した。本作品は、江戸時代のみならず、日本の絵画史全体を代表する作品といって過言ではない。

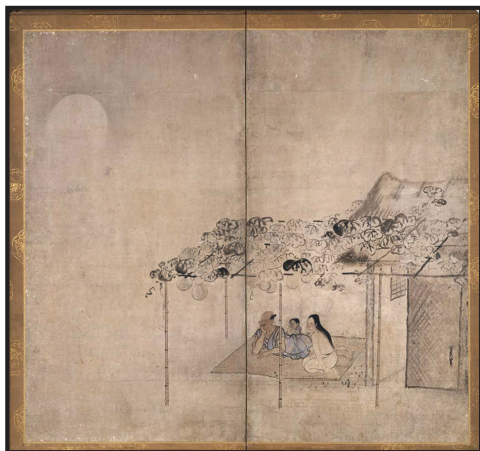
（根津美術館 HP より）

2016 年

6 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

納涼図屏風



2曲1隻 久隅守景筆 江戸時代 国宝 東京国立博物館



1978年国宝シリーズ

左上の大きな白い満月が、おぼろげにあたりの闇をも引き込んで、夕顔棚の風景と柔らかな白黒の対比を醸し出すのが、いかにも清新な趣である。月、夕顔、男、女、子供、竹棒、屋根、壁と、どれも異なる筆使いながら、一つに溶けあうように優しいのは、あくまで夕闇を意識した淡墨を基調としているからだろう。诗情豊かなこの画の主題は、木下長嘯子の和歌らしい。「夕顔のさける軒端の下涼み男はててれ(襦袢)女はふたの物(腰巻)」
東京国立博物館

2016 年

7 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

金銀平文琴

寸法：全長 114.5

額の幅 16.0 尾の幅 13.0

材質・技法：桐 漆塗 金銀平文 臨岳・竜尾は紫檀

琴〈きん〉は中国で完成され、七絃を有する。金や銀の薄板を文様に切り、漆地に塗り込め、表面を研ぎ出して文様をあらわす平文という技法で飾られている。内部の墨書により唐の開元23年(735)に制作されたと考えられている。琴は中国で成立した七絃楽器で、金銀平文琴(きんぎんひょうもんきん)は唐代のものです。琴の主たる材は桐で、黒漆を塗り重ね、その上に文様の形に切った金銀の薄板を貼り、さらに漆を塗り文様部分を炭で研ぎ出す平文技法で装飾が施されています。



2014年
正倉院宝物シリーズ



2016 年

8 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

菩薩半跏像



1981 年発行

1989 年発行

菩薩半跏像 普通切手

法隆寺宝物 銅造・鍍金

像高 38.8cm

飛鳥または奈良時代

重要文化財

東京国立博物館蔵

台座框の刻銘から「丙寅年に高屋大夫が亡き韓夫人のために発願造立した」ことがわかる。「丙寅年」は推古 14 年 (606) と天智 5 年 (666) の両説がある。また「韓夫人」銘やその瘦身の体躯、腰から垂れる帯飾りなど、総じて朝鮮三国時代の仏像との関連が濃い。

2016 年

9月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

製作 小川 義博

ハート形土偶



1981年7月10日発行
ハート形土偶 普通切手
縄文時代後期
(前 2000 ～ 前 1000)
群馬県東吾妻町
郷原出土
高さは約 30.5cm 個人蔵
東京国立博物館委託

乳房が表現され、お
なかの部分に妊娠線
が表現されているこ
とから、土偶に多く
見られる妊娠した女
性の土偶を表現して
いる。



2016 年

10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

八橋蒔絵螺鈿硯箱

『伊勢物語』第九段三河国八橋の情景を描いた硯箱。ここには物語絵にありがちな説明的な要素はなく、主題の本質を鋭く追求する文様構成と装飾材料の大胆な用法が見るものの目を引く。光琳蒔絵の特質をはっきり示した彼の代表作である。

(東京国立博物館)



木製漆塗 尾形光琳作
縦 27.3 横 19.7
高 14.2
江戸時代 国宝
東京国立博物館蔵



1955年 普通切手



1987年発行 第3次国宝シリーズ

2016年

11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

松林図屏風



6曲1双 紙本墨画
長谷川等伯筆
名縦 1568 横 3560
安土桃山時代
国宝 東京国立博物館蔵



地とも受けとれる閑静で奥深い表現をなし得た。等伯(1539-1610)の画技には測り知れないものがある。彼が私淑した南宋時代の画僧牧谿の、自然に忠実たろうとする態度が、日本において反映された希有の例であり、近世水墨画の最高傑作とされる所以である。

東京国立博物館

草稿ともいわれるが、霽に包まれて見え隠れする松林のなにげない風情を、粗速の筆で大胆に描きながら、観る者にとって禅の境地とも、わびの境

2016 年 12 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31